

明倫小だより

第 特集5 号
20. 5. 28
倉吉市余戸谷町3059
☎22-6175

いきいき わくわく 明倫の子ども

- あ 明るく元気な子 (健やかな体)
- お 思いやりのある子 (豊かな心)
- い いっぱい学ぶ子 (確かな学力)
- そら そらやるぞの意欲(たくましさ)

明倫をめざす学校像

- 一人一人が大切にされ、心の居場所のある学校
- 意欲的に学び、確かな学力を身につける学校
- うるおいと楽しさのある学校
- 地域から信頼される開かれた学校

五倫の森集会

11月13日(火)、「五倫の森集会」を行いました。今年で21回目となるこの集会、全員で「五倫の森の歌」を歌った後、なかよし班(1年から6年までの縦割り班)で五倫の森でのクイズラリーです。12のチェックポイントごとに課題(「秋に葉が赤くなる色素は? :アントシアン」「水道山の水はどこからくる? :余戸谷町水源地」「秋の歌を2つ答えましょう」等)を解きながらゴールを目指します。



<今年度五倫の森集会>

当日は天気はよかったもののやや滑りやすい斜面になかなか歩が進まない低学年の子もいます。班の中で励まし合ったり高学年の子が低学年の面倒をみながら進む微笑ましい場面も見られました。

休憩時間に五倫の森に設置されているアスレチックで遊んだり、自然観察やシイタケ栽培等で子ども達が慣れ親しんでいる五倫の森、今号では五倫の森に焦点をあててみます。

五倫の森の歌

一
五倫の森はいいな
山の緑にかこまれた
アスレチックができるから
冒険の道は
スリルがいっぱい
つり橋木琴ゆれても平気
丸太とつなの
アスレチックいいな

二
五倫の森はいいな
山の間にこだまする
みんなの声が聞こえるよ
なんだかこわそう
みんなの笑顔いいな
遊んでみれば
みんな笑顔いいな

五倫の森竣工

昭和60年、持ち主(河原町の小川さん)のご厚意で学校の裏山を自然を利用した子どもの遊び・体力向上・学習の場に活用させていただくこととなりました。当時のPTA理事会で裏山の活用について構想を練り、フィールドアスレチック等の施設の設置や自然環境を生かした野外教室としての活用が決まりました。

全保護者や職員の3回にわたる奉仕作業をはじめ、関係者の皆さんの献身的な努力の結果、その年の10月1日にオープンしました。自然の恵みの中で、子ども達が伸び伸びと遊びに学習に役立てることとなりました。

裏山の名称を児童や保護者、教員にも募集し「ウイーンの森」「わんぱく広場」「希望の森」「五倫の森」等が候補となりましたが、校名の源泉に由来する「五倫の森」に決定しました。



<PTA奉仕作業・竣工式>

五倫の森活用

竣工以来五倫の森は他の学校にはない優れた教育的資産として様々な形で活用されています。記録(学校沿革史、学校要覧「明倫教育」等)からは、竣工時のねらいを引継ぎながらも、その時々に応じた活用がされていたことが分かります。

昭和60年には家族で手作りのスキーやソリを制作し、五倫の森のミニスキー場ですべて遊んだという記録がありました。また、昭和62年度から平成2年度までは、教育課程外の活動として愛鳥クラブやホテルクラブが五倫の森で活動していた記録が残っています。平成6年度くらいまでは、五倫の森給食として交流給食等を行っていたようです。以来五倫の森での学習や遊びの中で、体力向上や豊かな心の育成が図られてきました。



<五倫の森給食>

五倫の森の維持・管理

優れた教育的資産である五倫の森、竣工以来のねらいを継承していくための努力も続けられています。里山同様手入れをしないと子ども達の学習や遊びの場とまらないどころか安全面でも問題があります。毎年の手入れは当然ですが、記録にも森の維持・管理、設備の充実を図ってきたことが記録されています。

昭和60年～現在まで毎年 ・安全点検（月例点検、整備点検）
昭和61年 ・PTA奉仕作業 五倫の森整備、ウイーンの小道冒険の道整備
五倫の池新設、造形砂場新設、遊具の移転、シイタケ栽培体験活動 等
平成4年 ・五倫の森遊具修理（PTA役員）
平成10年 ・五倫の森テーブル（野外テーブル用石材）作成 PTA理事他
・シイタケ栽培体験活動



<五倫の森で遊ぶ子ども>

治山工事、整備事業

平成16年、五倫の森（体育館裏山付近の傾斜地）に落石等で危険な箇所があり、余戸谷町地区治山事業が行われました。平成16年7月から平成17年3月までの工事期間中は、工事関係車両の進入等のため高いフェンスで仕切られ五倫の森が使えなくなりました。子ども達にとっては残念なことでしたが、工事終了後は新しくなった五倫の森が姿を現しました。

しかし、しばらく使っていなかったため五倫の森は荒れが目立ちました。そのため、平成17年度には「とっとり県民参加の森づくり推進事業」を活用して五倫の森の整備を行いました。アスレチック遊具の「つり橋」と「木琴」の補修・付け替えや足場も平らにして以前より安全な遊具となりました。

原木シイタケの栽培も行いました。専門家の指導を受けながら300本の原木の穴明け、植菌作業、仮伏せ作業を行いました。真冬の作業で大変でしたが、大人と一緒に参加した子ども達も大活躍でした。その年の春からたくさんのおいしいシイタケが収穫されています。



<原木シイタケ植菌作業>

また、五倫の森をはじめ校地内にはたくさんの樹木があります。樹木のことについて詳しい方と一緒に樹木の名前調べをしてネームプレートをつけました。参加した子ども達は五倫の森にはたくさんの種類の樹木があることに驚いていました。

五倫の森の維持・管理は大変な面もありますが、人の手を加えることでより安全で魅力的な学習・遊びの場となっています。



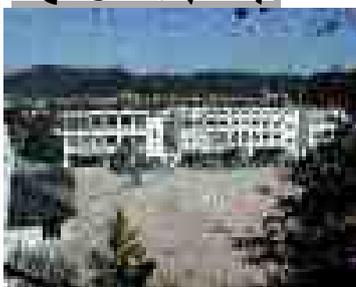
<治山工事>



<補修作業・樹木調べ>

そして、今

今、五倫の森に新しい動きがあります。それは5年生を中心としてはじまっている「新五倫の森プロジェクト」です。五倫の森のすばらしさを未来の後輩達に伝えよう、五倫の森をカブトムシの住む森にしようとかんばっています。子ども達はカブトムシについての知識（種類、えさ、住み家、飼い方等）を調べたり、専門家にアドバイスを受けながら活動を続けています。来年の夏には、子ども達と植物や昆虫をはじめとした生き物が五倫の森で共生する姿が見られることと思います。



<五倫の森から見た校舎>

持ち主さんからお借りして22年となる五倫の森、今では学びの場・遊びの場としてなくてはならないものとなっています。竣工時の思いを生かし、学校の宝・地域の宝として大切にするとともに様々な教育活動に生かしていかなければならないと考えます。（平成19年度明倫小だより第12号より）



<新五倫の森プロジェクト>

